MIC 情報通信 vol.27

（2010年1月発行）

MOODY INTERNATIONAL

発行

ムーディー・インターナショナル・サーティフィケーション株式会社
大阪事務所
〒532-0003 大阪市淀川区宮原4-1-14
住友生命新大阪北ビル13F
Tel：06-6150-0571 Fax：06-6150-0575

◇ MIC情報通信のバックナンバーは弊社ホームページ（http://www.moodygroup.co.jp）でご覧頂けます。

CONTENTS

1 新年ご挨拶

2 特集
「月刊アイソス」恩田編集長に聞く

3 「今、ISO登録組織は何に悩んでいるのか」

4 MICニュース
- JGAP（農業適性規範）動向
- JRCA講演会開催
- ムーディー・ブルガリア マネージャー EFAC議長に就任
- Q&A

5 審査の現場から
- お客様紹介（ユアサ商事株式会社）
- 連載よみもの「審査員の心理」（新：環境編）

6 連載よみもの
- MICリレーエッセイ「環境ISO雑感」（審査員 丸山 征弘）
- 環境よみもの「環境とISO14001」

7 お客様からのお便り
- 「世界遺産“屋久島”より」（有限会社福森土木）
- 「食品輸送のプロ集団として」（株式会社クィーントランスポート）

8 研修コースのご案内
- Information―MICからのお知らせ
- コースのご紹介/受講生からのお便り

新年ご挨拶

MICオペレーションマネージャー 古沢 幹子

皆様、新年明けましておめでとうございます

2010年の幕開けに際し、謹んで新年のお慶びを申し上げます。

昨年は、2008年に起こったリーマンショックの余波が世界経済を直撃しました。アメリカでは初の黒人大統領のオバマ政権が誕生し、共和党から民主党に変わりました。日本国内でも自民党から民主党に政権が交代しました。野党第1党が選挙で過半数を獲得し、政権交代を実現したのは戦後初めてのことですから、昨年は世界的にも日本的にも歴史に大きく刻まれる年でした。そんな激動の中で、多くの企業が大変な試練の時代を迎え、生き抜いてこられました。新しいより良いアイディアを常に生み出しながら、技術の刷新をし、どうにかしてこの危機を乗り越えようと頑張ってこられました。

そして2010年、新しい年のスタートです。
昨年の危機を、今年は100年に1度の絶好の成長の年にしたいと誰もが願っておられると思います。でも、もしかしたら、もう少し耐える時期が続くかもしれません。そんな中でISOの意義が大きく問われています。ISOは本当に事業に役立っているのだろうかと市場は呼びかけています。そして、MICは審査機関として皆様に何を行い、どうあるべきなのでしょうか。
ISOを続けたいが経済的に苦しいというお客様に何か新しい提案ができるかもしれません。ISOへの適合や効果だけではなく、更にレベルアップするために何か新しいサービスを提供できるかもしれません。

私達は、ISOの維持管理費以上に、価値を創出できる高付加価値の審査を心がけてきました。不況を乗り越えられた、或いは、乗り越えている企業に、更に、当社が今までとは違う、他の審査機関には真似のできない企業価値創造型の進化した審査を提供しない限り、生き残ることも、お客様から認められることも不可能と考えます。当然、審査員自身もそれを自覚し、自らを奮い立たせ、進化しない限り、この業界で審査員として、生き抜くこともできないと思います。

今年は、会社目標の業界No.1になるためのチャレンジの節目で、当社の全ての力が試される年だと思っております。お客様の更なる成功に触媒となって尽くし、最高の満足したサービスを提供できますよう社員全員でVisionと価値観を共有していく所存でおりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。
本年の、皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

－「月刊アイソス」恩田編集長に聞く－

今、ISO登録組織は何に悩んでいるのか

1996年創刊の「月刊アイソス」は、業界ニュースや取得事例、ISOマネジメントシステム規格解説など様々な情報を提供しているISO専門月刊誌です。今回は、同誌編集長の恩田昌彦氏に、ISO登録組織が抱える悩みや現状などについて伺いました。

聞き手：経営企画部 部長　重田 孝次

関心の高いテーマで情報を提供

――「月刊アイソス」の簡単な紹介をお願いします。

恩田　「月刊アイソス」は2010年で創刊15年目、1月号で146号、ISO9001と14001を中心にマネジメントシステム規格全般を扱っています。読者層は登録企業／組織が最も多く全体の7割強、次に審査員など認証機関関係者、そしてISOコンサルタントが続きます。品質と環境の割合は、全体でおおよそ3：1になっています。

――読者の関心が高いのはどんなテーマですか。

恩田　毎月、特集で一テーマを掘り下げて紹介しています。昨春から次のような特集を組んでおり、自ら言うのもなんですが、これらが関心が高いテーマだと言えるでしょう（笑）。

2009年
- 4月号　ISO9001追補改正版対応方法
- 5月号　登録組織が明かす
認証機関の選定基準/変更理由
- 6月号　The ISO 監査論
- 7月号　特集1　ISOで不況に打ち勝つ
特集2　話し合い力と監査力をつける！
- 8月号　特集1　ISO9001追補改正版の疑問に答える
特集2　新型インフルエンザ騒動からBCMを検証する
- 9月号　儲かるISO事務局のコツ
- 10月号　ISOで組織とヒトを元気にする。
- 11月号　ISOとカーボンマネジメント
- 12月号　ISO9004:2009で持続的成功の経営を実践せよ

2010年
- 1月号　TC176メンバー・加藤重信氏が提言
規格/制度/認証機関/組織-抜本的改善方法

特集記事以外にも連載を毎月10本以上掲載していますが、こうした数多くの記事の中で読者からとりわけ反応がよいのは2種類に分けられます。まずは事務局業務に関連したテーマです。例えば2009年9月号の儲かるISO事務局のコツは、書店売り上げも他の号より好調でした。もうひとつは認証機関の評判に関するものが挙げられます。現状のISO審査登録制度では、自分たちが登録している認証機関以外については、審査の中身などはむろん、その機関全般について知る機会や情報に触れることが少ないためだからでしょう。

株式会社システム規格社
「月刊アイソス」編集長
恩田 昌彦　氏

ISO事務局の悩みが増えている背景

――登録後の事務局の悩みについてどんな声が聞こえてきますか？

恩田　社内がルールにしたがってくれない、そもそもトップに活用しようという意識がないといった組織内における位置づけの問題から、内部監査がマンネリ気味、監査員のレベルアップがなかなか進まないといった運用面での悩みまで幅広くあるのは認証機関がご存知のとおりです。実は事務局の抱える悩みが以前より増えていると感じますが、その背景として、まず事務局担当者が変わっていることがあるようです。ISOを初めて導入するには、コンサルタントなどに手伝ってもらっても担当者は苦労してさまざまな問題を自身で解決してきたはずです。今は、こうした担当者が定年退職したり異動したりして後任にバトンタッチする時期になっています。ただ、引き継ぐ方はまずはISOを勉強することで手一杯で、なかなかマネジメントシステムの改善までたどりつけないわけですね。

――当初の取得がゴールといった時から時間が経って、実際の導入成果が求められている時期に入っていることも、引き継いだ担当者にはプレッシャーになっているようですね。

恩田　また認証取得組織の規模として中小企業が中心になっており、事務局専従をおくケースはまれで、他の業務と並行して片手間でやらざるを得ない状況におかれた担当者が多い状況も、拍車をかけているようですね。彼らは自分たちの悩みをどこに寄せていいのかわからず、といって勉強を含めてISOに時間を割く余裕がないのです。現状の仕組みがうまくいっていないことは従業員の不満などから漠然とは感じていても、その原因がどこにあって、どのような対応が必要なのかは把握できていないのです。

登録組織はもっと認証機関を利用してほしい

――ここまで紹介した悩みを一気に解決するような処方箋はありますか。

恩田　ぜひ、認証機関に悩みを正直に、それも直に訴えることお勧めします。社内における悩みでもいいですし、運用面での問題でもいいです。それを認証機関による事前の打ち合わせなどでしっかり伝えてみてください。こうした悩みに審査を通じて応えてもらうのです。認証機関の営業担当者に具体的に相談してみてはいかがでしょう。

登録企業は自分たちに役立つようにもっと認証機関を活用すべきでしょう。もちろんそれには発想の転換が必要になってきます。審査における指摘を歓迎し、審査を無難に済まそうなどという考えを180度変えるのです。

――認証機関の評判についてはどんな情報を載せているのですか。

恩田　これは紹介の仕方が難しいですね。例えば、認証登録証明書さえあれば満足で審査はとにかく何も言われたくないという受審組織から、「うちの認証機関はいいよ！」といった情報を寄せられたとします。一方、仕組みをより活用しようと四苦八苦している組織があったとします。後者にとって、前者の企業が良いといっている認証機関が同じような審査を行っても満足感は得られないでしょう。

――おっしゃる通り、認証登録証明書さえあればいいというのは極端なケースですが、受審企業のニーズを汲み取って、より満足度の高い審査が今、求められていると考えています。

恩田　MICさんに逆にお伺いしたいのは、登録組織はどういった理由で御機関を選んでいるのでしょうか。

――やはり登録組織からの評判が一番多いですね。今までの審査の内容が広く評価されたのだと自負しています。またコンサルタントの紹介も結構な割合を占めています。

恩田　しっかりしたコンサルタントから支持されているのは素晴らしいことですね。彼らは、良いと思っている認証機関を支援先組織に推薦して任せる訳ですから、業界に詳しい彼らから信頼されている証と言えるでしょう。

せっかくなのでコンサルタントとの関係で気になることを触れておきます。コンサルタントは最初の登録審査まで、認証機関はそのあと何年もかけて組織のレベルアップのお手伝いをしていくわけですが、登録組織に注意していただきたいのはコンサルティングの内容です。例えば、最初の登録審査だけ考えて、審査対応においてごまかすテクニックばかり教えるようなコンサルタントの言うことはあまり信じないほうがいいでしょう。彼らにとって、指摘とはたとえ改善のきっかけになる的確な内容であっても、とにかく指摘がでない審査が良い審査というわけです。時には企業のためになる真っ当な指摘でも、撤回させようと画策することもあると聞きます。こんなコンサルタントにかかわった組織は、登録が済んでコンサルが離れた2、3年後にはその仕組みは火達磨になりかねないでしょう。もし、すでに仕組みに何か兆候があるなら早めに手直しをしていく必要があるでしょう。アイソスではこうした組織における仕組みの改善方法や、満足度の高い審査の中身を紹介していくので、関心のある登録組織にはぜひ手にとっていただきたいですね。

月刊アイソス
http://www.isos.co.jp

毎月10日発売
1400円（税込）
販売書店などは上記ホームページに掲載されています。

JGAP（農業適性規範）動向

MICでは日本GAP協会からの認定を受けて2007年より審査業務を開始しました。JGAP（Japan Good Agricultural Practice）は、生産者が安全な農産物の生産と、良い農場経営を実践していく農場管理の手法で、「農産物の安全」「環境への配慮」「生産者の安全と福祉」「農場経営と販売管理」の4つのテーマで構成されています。現在、青果物、穀物、日本緑茶の3種類の“チェックリスト”が開発されており、認証農場数は全国で約700戸になっています。

JGAPは日本GAP協会が運営しており、イトーヨーカドー、イオン、生協などの大手流通、農業生産者、農薬・肥料メーカー、農業資材販売業者など、会員数は約250社になっています。さらに、国の政策として2011年度までに全国2,000の産地へのGAP導入が決定されていますので、今後更にJGAP認証農家数の増加が見込まれます。

また、弊社ではJGAP審査員セミナーも開催し、多数受講頂いております。ご興味がございましたら、お気軽に弊社営業部まで、お問合せください。

JRCA講演会開催

MICのISO9001審査員の約半数以上が審査員資格登録している財団法人日本規格協会マネジメントシステム審査員評価登録センター（JRCA）主催の講演会が、昨年11月に大阪と埼玉で開催され、それぞれ約1,000人（大阪）、約2,000人（埼玉）の会場がほぼ満席となる大盛況でした。講演会は、JRCAに登録している審査員を対象に年に一度開催されているもので、今回は「品質マネジメントシステム構築への期待と信頼性確保について」、「マネジメントシステムの有効性を審査する」の内容で行われました。同様の講演会は、IRCA（国際審査員登録機構）など他の審査員資格登録機関でもほぼ毎年開催されており、弊社の審査員も参加し、情報更新や資質の向上に役立てています。

ムーディー・ブルガリア マネージャー EFAC議長に就任

昨年秋に開催されたEFAC（The European Federation of Associations of Certification Bodies：ヨーロッパ認証機関協議会）の会合にて、ムーディー・ブルガリアのマネージャー、Ivan Savovが議長に選出されました。これにより、IAF（The International Accreditation Forum, Inc.：国際認定機関フォーラム）が認定するヨーロッパの120以上の認証機関の公式代表者を務めることになると同時に、認証に関するヨーロッパの規則と指針の導入を担当するヨーロッパの機関であるEA（European Co-operation for Accreditation：欧州認定機関協力機構）の公式代表者となることにもなります。今後の活躍を期待したいと思います。

Q&A

Q 当社は5年前にISO9001を取得し、MICでの受審経験は5回を超えました。これまで複数の審査員の方に接し、様々な経験に基づく知識や技量、考え方など、非常に参考になり、勉強もさせて頂きました。最近、「私が審査員だったら」と考えることがあり、審査員として活動したいという思いも出てきました。審査員になるにはどうすればよいのでしょうか？

Answer

審査員として活動するためには、まず審査員として認証機関への登録が必要になります。要件として一般的に業務経験を含め能力、資質が求められます。ISO19011（品質及び/又は環境マネジメントシステム監査のための指針）には、「監査員に必要な力量」について書かれています。この中で、監査に必要とされる力量として、規格の知識、経験以外に、個人的資質があり、倫理的、誠実、外交的、周囲の状況を意識する観察力、知覚、適応性、自立的、コミュニケーション能力などが挙げられています。ISO19011は内部監査員、審査員にとって参考にすべき規格です。

また、ISO17021（マネジメントシステムの審査及び認証を提供する機関に対する要求事項）には、「認証機関は、審査員が審査プロセス、認証要求事項に精通していることを確実にする」などが定められています。自組織でのマネジメントシステム構築者、管理責任者、内部監査員、その他経験者、関係者の方々はその経験がプラスになるでしょう。

認証機関で審査員を募集する場合の一つの要件として、審査員資格が求められる場合があります。MICではISO9001、ISO14001各審査員研修コースの開催もしています。これらのコースを受講・修了すると、それぞれ品質・環境の審査員補になるための資格が得られますので、修了（合格）後に、IRCA（国際審査員登録機構）へ資格登録を行うことになります。但し、各認証機関の審査員になる為には、各認証機関の力量評価を満たす必要がありますので、認証機関それぞれの審査員募集要項をご確認下さい。

尚、MICで認証登録されている組織に所属されている方は、上述ISO17021の利害関係に関する要求に従い、MICとの審査員契約は出来ませんので予めご留意ください。

審査の現場から

ユアサ商事株式会社 様

（ISO14001：2004 認証登録）

MIC審査員　美濃 英雄　*Hideo Mino*

ユアサ商事株式会社様は、2009年2月24日にISO14001を国内全事業所で取得されました。一昨年2月27日の本社での認証取得から全社認証まで1年未満のスピード取得です。

ユアサ商事様は会社設立90周年となる2009年を節目に「環境提案のユアサ」に向け様々な事業に取り組まれていますが、ISOマネジメントサイクルはそれらのベースとなる取り組みとして位置づけられています。また、2009年度より取引先様に対するこれまでの感謝の気持ちを込めたCSR活動として「クールアースチャレンジ」を推進しておられ、取引先様社数分のカーボンオフセットやユアサ商事様自身がカーボンフリー企業となるため年間約3,500トンの排出権の日本政府への移転をすすめられています。

数多くの取引を抱えられる商社が進んで環境貢献活動を広げられようとされる意義は大きく、環境貢献意識の多方面への広がりが期待できます。

同社国内拠点（8支社・12支店・13営業所）

http://www.yuasa.co.jp/

連載読み物

審査員の心理

第1回（環境編）

「事前訪問　その1」

MIC 品質管理室長　大村 敏夫　*Toshio Omura*

私は、MICの社員審査員として、ISO14001（EMS）、ISO9001（QMS）および複合の審査を担当しています。「審査員の心理」というタイトルでは、MIC情報通信のNo.14からNo.26まで、MIC審査員室長 成毛がQMS審査について連載していましたが、これから「環境編」として、私の経験から審査員がどのように審査に臨んでいるかを述べさせていただきます。

新規のお客様の場合、EMS単独やEMSとQMSの複合審査では事前訪問に審査員が出かけることになります。書類などでは分からないサイト（対象事業所）のリスクを、審査員の目で確認することが目的です。事前訪問に先立って、見積依頼書などの情報が提供されます。その他、入手可能な情報を収集します。お客様のホームページの有無、その他のWebサイトからも情報が得られることもあります。また、住所から地図や航空写真を検索して周囲の状況を確認します。これらの情報が多く集まりますと、どのような業種、規模の組織かの概略のイメージをつかめ事前訪問報告書の企業情報の下書きができますので、訪問では内容の確認で済むこともあります。また、最寄りの駅がどこかを確認して、交通手段について調査します。前後に他の審査が予定されている場合は訪問先からの移動であったり、次の訪問先に移動することもあり、訪問可能な時間を調査します。EMSの事前訪問では約3時間、複合審査では約5時間の事前訪問が目安になっています（QMSでは約2時間）。このような前準備をして、お客様と電話連絡をとり、訪問の時間や駅からの交通手段、連絡方法、お迎えいただける場合は待ち合わせ場所、時間などを確認します。

事前訪問について、お客様によっては審査と勘違いされ、コンサルタントの方の同席を手配されることもありますが、そのような心配は不要です。組織の概要、サイトの視察、及び審査までの準備状況を確認することが事前訪問の目的で、指摘をしてはいけないことになっていますので、会社案内などの資料と、これまでに構築したマニュアルなどの文書や記録を準備していただければ結構です。組織の方からお話をうかがい、サイトを案内していただきます。

事前訪問から担当するお客様には、一次審査と二次審査を含めて3回訪問することになりますが、事前訪問から新しいお客様との出会いが始まります。

MICリレーエッセイ㉕

審査員からのエッセイをお楽しみください。

神奈川県相模原市

From 神奈川県相模原市
丸山 征弘
（まるやま まさひろ）

PROFILE

専門分野	ISO14001 - 食品･紙パルプ･運輸･倉庫
経歴	加商株式会社、豊田通商株式会社、MIC審査員（現職）

「環境ISO雑感」

商社に入社後、多岐の業務を経験し、最後はISO取得支援業務で北海道から九州まで約4年間、全国の支店･子会社を駆けずり回りました。この経験が現在の審査員業務に役立っていると感じています。

MICは中小企業様が多い構成となっておりますが、各社の環境管理責任者の方は本業と兼務されている場合が殆どであり、大変な労力を費やされております。環境マネジメントマニュアルはごく一部では、全くの内作で実施されており、マニュアルの作り方・内容は千差万別。大事なことは、そのマニュアル及び規定類･手順書類･文書類が自社の業態･業務の内容を現場から表現されているかだと思います。社員の方々が理解でき、読んで貰えるマニュアルになっているか、その為には規格本を熟読して頂きたいと思います。その基本方針に沿って作業能率化･安全対策･緊急対応･汚染防止につながる手順への展開がなされているかが取得後のレベルアップ、そして「儲けるISO」につながり、自社の経営に活用されるものと思います。ISO認証取得の手段としての形だけの手順書では使える(活用できる)ものではありません。システム文書はその一助となるように出来るだけ「文書類は負担が無いように／運用面と監視測」が大事と考え、売上増加･利益増加に結びつく目的・目標を捉え「儲けるISO」に審査の力点を置いている積りです。

健康面では「美味しい酒」はどうも健康維持のために邪魔をします??（実は、もう一つありますが･･･）健康維持のため、特にテニスとゴルフは20年以上となりますが、自分の目標としている所にはいまだ到達出来ていません。

最後に「ISOに関連する全ての人」に益々のご活躍とご健康を祈念して・・・

連載「環境とISO14001」㉕

第25回 「ISO14001の効果的な運用（2）」

MIC環境審査員顧問 郷古 宣昭 *Nobuaki Goko*

前回は「ISO14001で何をするか」について述べました。つまるところ①環境汚染の予防②環境法規制の順守③継続的改善であり、その内容は内部規範である環境方針の中で具体的に宣言されます。今回はISO14001の効果的な運用の続きとしてPDCAを回すことについて述べます。

2. PDCAを回すとはどういうことか？

ISO14001はPlan-Do-Check-Actで知られる方法を基礎にしており、規格の4.3計画、4.4実施及び運用、4.5点検、4.6マネジメントレビューの要素群がそれぞれP、D、C、Aに振り分けられていることは周知のとおりです。PDCAを回すということは組織の様々なプロセスに規格の要素およびそれらの相互作用を適用してP→D→C→Aの順で工程を進めることです。以下に詳しく述べます。

2-1 計画する

①組織の環境上の重要事項、すなわち著しい環境側面を決定します。これは単に目標設定のための一過程ではありません。組織のあらゆるプロセスの実行の際に配慮されるべき事項として確定し、組織の構成員全員で認識する必要があります。

②環境改善のための目標を決めます。これは環境方針の中で宣言した汚染の予防（環境保全活動）を具体化したものであり、上記の「著しい環境側面」とも整合されねばなりません。また、目標達成のための実施計画を策定します。計画は当然監視･測定され、成果が問われますので策定する際にはあらゆる手段とその可能性及び追跡のための指標が検討されねばなりません。

③組織が順守すべき環境法規制を特定します。順守すべき事項は手順に基いて実行され、順守評価され、マネジメントレビューで確認される事項として特定されます。従って、実行管理されない責務規定や理念法規は特定する必要はありません。逆に、地域や自治体との協定や顧客の要求事項のほうが組織にとって重要になることがあります。

これら①、②、③は実行され、監視･点検され、処置される基礎、すなわち「計画」として決定される必要があります。

2-2 実施する

規格は「4.4実施及び運用」として計画（著しい環境側面の管理及び目標達成、法規制順守）をスムーズに達成するための支援システムとして組織、教育訓練、文書システム、コミュニケーション、緊急事態への対応及び計画実行の手順策定を規定しています。

2-3 点検する

計画（著しい環境側面及び目標達成度、法規制の順守）は監視･測定され、記録されます。内部監査では計画されたことが実行されているか、計画通りの成果が得られているかチェックされ、マネジメントレビューの入力情報となります。内部監査はPDCAサイクルのC(チェック)の機能を有していることを思い起こす必要があります。

2-4 処置する

内部監査報告などさまざまな点検結果がトップマネジメントによってレビューされ、次なる展開がアクションとして出力されます。

以上のように、規格の条項をバラバラに実行するのではなく常にPDCAを回すこと、プロセスのつながりを重視することを意識して実行管理することにより、ISO14001の効果的な運用が可能です。これはISO9001でいう「プロセスアプローチ」に繋がるものです。

次回は環境トピックとして東京都が始める温室効果ガスの総量規制と排出権取引について解説します。

お客さまからのお便り

世界遺産“屋久島”より

有限会社福森土木（ISO9001:2008、ISO14001：2004 認証登録）
総務　長 恵美

当社は、2006年に他の審査機関でISO9001とISO14001を取得し、1年後にMICに審査機関を変更しました。私自身は勉強中で審査に直接対応する機会はほとんどありませんが、毎年審査員の方に接するだけで、すごく緊張してしまい、うまく言葉にできなかったりとまだ大変です。

1993年日本で初めて世界自然遺産に登録された島、そこが私たちの住む“屋久島”です。標高1936m九州最高峰の宮之浦岳、皆さんよくご存知の樹齢7200年といわれている“縄文杉”や宮崎駿監督の映画「もののけ姫」のモデルになった“もののけの森”など自然豊かなところです。最近は鹿や猿がよく民家までおりてきて、観光客の方には喜ばしい!?ことなのかもしれませんが、住民にとっては･･･。先日は道の真ん中でお猿さんが大ゲンカ!?危うく轢きそうに･･･なんて事もありました。昨年7月22日には、皆既日食もあり、とても楽しみにしていたのに、あいにくのお天気で残念でしたが、たった数分の間に、夕方→夜→朝をあじわうというとても不思議な体験でした。本当に一瞬で真っ暗になり、ちょっと興奮しました。みなさんも一度屋久島に遊びにいらしてください。とてもいいとこですよ!!!

さて、こんな島ですから仕事の面では、環境にとても気を使って仕事をしています。特に水に対する影響を低減し、建設副産物の適正処理、リサイクルの推進に積極的に取り組み、技術的、経済的に可能な範囲で汚染の予防に努め、環境負荷の低減を図り、環境保全活動をこころがけています。その中で、請負った県工事が2件とも、工事評価点80点を超え、高い評価を受けました。今後もこの自然豊かな環境を大切にしながら、更なるシステム改善に取り組んでいきたいと思います。

食品輸送のプロ集団として

株式会社クィーントランスポート（ISO9001:2008、ISO14001：2004認証登録）
取締役部長　橋本 眞一

当社は、平成9年に、餃子の王将（株式会社王将フードサービス）の運送部門が独立し設立された会社です。京都の久御山工場から、主要取引先である餃子の王将チェーン店約140店舗に配送しています。北陸･東海･阪神･四国地区をカバーし、近年の取り扱い量は増加の一途を辿っています。

昨年、設立10年を機にISOでマネジメント革新を狙おうと、まずISO9001の取得に着手しました。審査では、①運転者台帳に添付されているドライバーの免許証の有効期限について、②自動車安全運転センターで作成された当社の運転記録証明書分析結果について、などが指摘事項を受けましたが、是正処置で確実に対応し、昨年2月に無事取得致しました。

運送業は環境にとって重要な業種であるとの認識から、ISO14001の取得に向けても取り掛かりました。当社では、エコドライブの推進に、トラックメーカーと独自に設計したGPS（位置測定システム）機能付きオリジナルデジタルタコグラフ（運行記録計）を全社に導入していますが、審査ではその性能について、審査員の方が感心されていました。ハイブリッド車も増車しています。また、主に夜間、深夜時間帯を使ってルート配送、納品していることから、深夜の店舗納入現場にも社長自ら、審査員の方に立ち会いました。

ISO9001に加えてISO14001を取得したことで、社内意識は一層向上したように感じます。『食品輸送のプロ集団として、安心、安全とタイムリーな配送を通じて、食生活と食品産業の発展並びに豊かな食文化に貢献し、顧客満足の向上を目指す』の理念の下、今後も輸送を通じて顧客満足と社会貢献の向上を図るための継続的改善に取り組んでまいります。

餃子の王将　Queen Transport.
http://www.queentransport.co.jp/

information
◆◆◆MICからのお知らせ◆◆◆

MICで認証登録されているお客様で、登録内容に変更が生じた場合には、MICまでご連絡をお願い致します。ご連絡については以下所定の様式にご記入頂き、FAX又は郵送にてお届けください。

①組織名、住所、担当者、連絡先等に変更が生じた場合 → 『会社情報変更届』
②登録人数、登録事業所、認証登録範囲等の認証登録の内容に変更が生じた場合 → 『認証条件変更審査見積依頼書』

どちらの様式も、弊社ホームページ内“MIC認証登録企業様向けページ”よりダウンロード頂けます。（お客様専用ページへのアクセス方法につきましてはご契約時に弊社より送付しております案内書をご参照ください。）
ご質問、ご不明な点等ございましたら、弊社営業部までお問合せください。

研修コースのご案内

内部監査員研修コース

マネジメントシステムの維持・改善のために必須の内部監査。その知識とスキルを身に付けます。これから導入を予定されている企業や、既に導入され更に効果的な運用を目指される組織の皆様方にもお薦めです。

- 内部監査員コース　9001/14001/18001　（2日間）

［開催地］ 東京・大阪・名古屋・富山・金沢・静岡・他

［対象者］
●品質/環境/労働安全衛生マネジメントシステムの導入を予定/検討している
●システムをより効果的に運用したい
●効果的な内部監査を行いたい

審査員研修コース

審査員への最初のステップです。合格すると、審査員補になる資格が得られます。内部監査リーダーの方にもお薦めです。

- ISO9001 ：IRCA認定審査員研修コース （5日間）
- ISO14001：IRCA認定審査員研修コース （5日間）

［開催地］ 東京

［対象者］
●審査員の目で内部監査を行いたい
●内部監査グループのリーダーに任命された
●将来審査員を目指している

〜受講生からのお便り〜

ISO9001内部監査員コースを受講して

品質内部監査員コース（2008年5月）受講
ベンリッコ・アンド・カンパニー株式会社　べんりっこ事業部
小林 富美

当社は、あなたのために、社会のために私たちができること「ONE FOR ALL. ALL FOR ONE.」をテーマに、社員ひとり一人の力を社会に役立てようと考えています。
そのために2006年にISO9001：2000を取得し、2008年私が内部監査員に任命され、内部監査員研修コースを受講しました。講習では様々な職種、年代の方がおられ、和田講師の楽しいお話を交えながら素人の私でも楽しく2日間勉強することができました。
これからも顧客様よりの要求事項を適合させ、継続的改善を行い、顧客満足度の向上に努め、信用・信頼を勝ち取ることを目指して社員一同邁進したいと思います。ありがとうございました。

http://www.benricco.com/

ムーディー・インターナショナル・サーティフィケーション株式会社
http://www.moodygroup.co.jp

東京本社
〒103-0012 東京都中央区日本橋堀留町1-4-2
日本橋Nビル4F
TEL：(03) 3669-7408 FAX：(03) 3669-7410
E-mail：mi-certification@moodygroup.co.jp

MOODY INTERNATIONAL

大阪事務所
〒532-0003 大阪市淀川区宮原4-1-14
住友生命新大阪北ビル13F
TEL：(06) 6150-0571 FAX：(06) 6150-0575
E-mail：mic-osaka@moodygroup.co.jp